

市政のここが聴きたい！

# 一般質問

9議員が登壇

傍聴者延べ101名

一般質問とは、議員が市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来の方針などを質問し、説明を求めるものです。

※一般質問の様子もホームページで録画配信中ですのでご覧ください。

援について

ヤングケアラーへの支

係機関につなげていく。

に身近な保育士や教員への啓発を進め、早期に関

係機関につなげていく。

が安心した生活を送れるよう支援することが重要

である。親への適切なサービスで子どもの負担

を軽減するほか、子ども

の啓発を進め、早期に関

係機関につなげていく。

が安心した生活を送れる

よう支援することが重要

である。親への適切な

サービスで子どもの負担

を軽減するほか、子ども

の啓発を進め、早期に関

係機関につなげていく。

が安心した生活を送れる

よう支援することが重要

である。親への適切な

サービスで子どもの負担



精神障がいの子どもの親を持つ子どもへの支援について

田中 まどか

問 精神障がいに対する知識がない子どもは、親の不調の理由が分からず悩んでいることが多い。精神障がいの親を持つ子どもとの人数と事例を把握しているか。

答 市内では、精神障がい者保健福祉手帳を交付した世帯の約1割にあたる46世帯が18歳未満の子とも同居している状況だが、事例については把握できていない。

問 今後の支援のあり方と関係者への啓発は。

答 周囲の大人が子どもの不安に気づき、子どもが安心した生活を送れるよう支援することが重要である。親への適切な

サービスで子どもの負担を軽減するほか、子ども

の啓発を進め、早期に関

係機関につなげていく。

が安心した生活を送れる

よう支援することが重要

問 ヤングケアラーとは、介護やケアが必要な家族の世話や家事を担う18歳未満の子どものことで、年齢に見合わない重い負担と責任を負うことから自身の育ちや学校生活に影響を及ぼすこともある。市内における事例の把握と支援は。

答 事例は把握していない。ヤングケアラーについての認知度は、まだ低く、国による実態調査や

対策もこれからだが、今後、介護関係者や教員などに対し啓発を行い、発

見と支援につなげていく。

多問題家族への支援について

問 家族が抱える課題が複雑かつ慢性化し、解決が容易ではない多問題家族への支援は。

答 現在の法体系は縦割り、これまでは対象者ごとに個別のサービスにつなぐことで支援を終



左：サンマーク出版 右：学苑社

家族のこころの病気を子どもに伝える絵本

結としてきたが、今年度、庁内の保健福祉関係の専門職や担当である主査・主任級の職員が連携して対応するための「複合課題調整チーム」を設置した。問題を抱えている人や世帯全体を支援していく包括的な相談支援体制にシフトしていきたい。また、多問題家族が地域とつながるよう地域支え合い体制として「地域福祉推進組織」の立ち上げを準備している。